

# 埼玉県総合リハビリテーションセンターだより

## <今号の内容>

パーキンソン病患者支援セミナーを開催しました！…	1
障害者支援施設のグループ訓練 ……………	2
臨床心理科の紹介 ……………	4
新規採用医師紹介 ……………	4



発行： 埼玉県総合リハビリテーションセンター  
〒362-8567 埼玉県上尾市西貝塚 148-1  
TEL 048-781-2222

## パーキンソン病患者支援セミナーを開催しました！

11月19日（日）午後、埼玉県総合リハビリテーションセンター（以下「センター」という。）において「パーキンソン病患者支援セミナー」を開催しました。患者・ご家族をはじめ医療・福祉関係者計74名の方に参加をいただきました。今回のセミナーは、患者団体である埼玉県パーキンソン病友の会の協力のもと実施したものです。以下、セミナーの実施内容について紹介いたします。

### 第一部 講義

全体で約60分の講義をセンターの3人の医師が分担して実施しました。新薬を含む最近の治療の動向、刺激発生装置やポンプなどの機械を用いるデバイス補助療法による手術、集中リハビリテーションなどについて、センターでの実績も踏まえ解説しました。脳深部刺激療法（DBS）の手術後の患者の姿を映した動画では、患者のあまりにも大きな回復ぶりに、会場から驚きの声があがっていました。



### 第二部 訓練室&訓練実演の見学

まずは、講義と同じ会場で、映像を用いながら食事動作と姿勢、書字練習、認知機能練習、発声・発音練習などの作業療法及び言語聴覚療法の訓練を、一部は参加者も一緒に行っていたりしながら紹介しました。次に、リハビリ訓練室に移動し、訓練室の紹介と理学療法の訓練を実演（センター職員による模擬）しました。歩行と立ち上がり及び姿勢に関する訓練を詳しく解説しながら実演するとともに、今後実施予定の仮想現実（VR）技術を応用したリハビリ機器を紹介し、仮想空間上に表示される対象に向かって手を伸ばす動作を繰り返す訓練を行って見せました（写真参照）。



### まとめ

皆さん熱心に講師の話に耳を傾け、講義のメモを取り、また、訓練室では食い入るように実演を見学されていました。とても勉強になった、センターの取組みをよく知ることができた、との意見をいただきました。今後とも、こうした患者への支援及び患者を支えるご家族、関係者への支援に力を入れています。

## 障害者支援施設のグループ訓練

障害者支援施設では、生活訓練、就労移行支援のサービス利用者の障害特性に合わせたグループ訓練を提供しています。現在活動しているグループは以下の5つです。

- 1) あすなろグループ（手順書を職員と一緒に読み進めながら、課題を実施するグループ）
- 2) コバカン（記憶障害に対し、メモをとる習慣を促すグループ）
- 3) 模擬就労（受注業務をグループメンバーで話し合い連携とりながら進めていくグループ）
- 4) 一期一会（コミュニケーション能力向上を目指すグループ）
- 5) 紙すき（技術を要する紙漉き作業を2人で連携しながら遂行していくグループ）

この中から今回は、技能展やワークフェアで質問を受けることの多い「紙漉きの手順」を紹介します。



### <紙漉き作業手順>



①牛乳パックの印刷面をはがします



②水に浸けます



③裏面をはがし干します



④乾いたらシュレッダーにかけます



⑤シュレッダーした牛乳パックに水を足しミキサーをかけます (これを『たまり』と呼びます)



⑥たまりに水を足し紙すき器にかけます



⑦ローラーにかけ脱水し、紙を均一に伸ばします



⑧棚に入れ和紙を乾燥させます



⑨乾燥したら和紙の完成です



⑩和紙が名刺やポチ袋になります

グループ訓練は個別の訓練と異なり、他者とコミュニケーションをとることが必要となります。訓練前に手順を確認し、作業中も他者の動きを見ながら自ら業務を実施する必要があります。個別の訓練以上に職場環境に近い訓練であり、各々の苦手や障害特性が認識しやすく非常に効果的な訓練です。

他のグループ訓練を今後も紹介していけたらと思います。



## 臨床心理科の紹介

臨床心理科では、医師からの依頼を受け神経心理学的検査や高次脳機能障害のある方の認知リハビリテーション（以下「認知リハ」という。）、患者やご家族との面接・相談を行っています。

今回は認知リハについてご紹介します。認知リハは1対1の個別で行うものと、グループで行うものがあります。

個別の認知リハは、入院中の方や外来リハに定期通院されている方が対象で、検査実施後、記憶や注意機能など苦手になっている部分についてその方に合わせた方法や分量で行います。

グループでの認知リハは、数人で同じワークに取り組みます。症状について学んだり、ワークを通じてご自身の苦手なことについて振り返り、自己認識を深めたりしています。苦手なことやできないことに直面

することはつらい作業ですが、グループのメンバーと一緒にいることで、お互いの苦勞や工夫を分かち合い、共感しながら理解していくことができます。また、他の人の話を聞いたり、自ら発表するトレーニングにもなっています。主に、復職を目標に外来リハに定期通院されている方とご家族が利用されています。

症状による違いや向き不向きもあり、患者に応じて適したリハビリの形をお勧めしています。よりよく生活するためのお手伝いができるよう、スタッフ一同これからも励んでまいります。



## 新規採用医師紹介



氏名：横井 謙一郎

卒業学校：福井大学

職名：医長

出身医局：順天堂大学リハビリテーション科

診療科目：リハビリテーション科

研究・専門：リハビリテーション医学

はじめまして。診療部リハビリテーション科に新しく参加することとなった横井謙一郎と申します。生まれは千葉県で初期研修就職時に関東に戻ってまいりました。

前任地の大学病院での経験は、主に急性期病棟におけるリハビリテーション医療でした。急性期病院でのリハビリテーションは、患者の急な疾患や手術直後の回復をサポートする役割を果たします。リハビリ科の医師は、患者の機能回復を早期に促進するための治療計画を立案・指導し、多職種と連携しながら日常生活動作の獲得を目指します。

今回、県リハに赴任させていただき、急性期病院での治療後の方のリハビリテーションが実際にどのように行われているかについて携わらせていただくにあたり、社会復帰を前提としたプランニングと実践に重点を置いた治療を提案できればと考えております。急性期での治療や症状によって当院に入院時の状態は様々だと思いますが、患者、ご家族と一人一人との対話を大切に、具体的で効果的なリハビリ治療を提供できるよう努力してまいります。